

朝鮮

鮮 朝
誌業產

卷 上

知不足齋

300

338.095

한글정조
v.1

보존

著編精口山

朝鮮産業誌

卷 上

— 弘 益 大 學 校 —



E00049585

全羅道

面積及分布

本土耕地總面積

名稱	全面積	耕地總面積	一方里中	全面積ニ對スル百分率
本土				
南道	六七一・七〇 方里	二三五、七六一・九〇 町	三五〇・九〇 町	二二・五七
北道	五二五・八〇	一四六、四九六・五〇	二七八・六〇	一七・九二
合計	一、一九七・五〇	三八二、二五八・四〇	三一九・二〇	二〇・五二
地種別	全面積	道別面積	一方里中	全面積ニ對スル百分率
田	三〇三、〇八〇・五〇 町	南道 一八四、〇一六・五七 町	二七三・九〇 町	一七・六一
畑	七九、一七七・〇九	北道 一一九、〇六四・八〇	二二六・四〇	一四・五六
		南道 五一、七四六・二〇	七七・〇〇	四・九五
		北道 一七、四三一・七〇	五二・二〇	三・三六
				七・〇二
				四八・一三
				三一・一四
				一三・五三
				七・〇二

島嶼耕地總面積

名	稱	全	面	積	耕地總面積	一方里中	全面積ニ對スル百分率
島	嶼			一五七・八二	一四、〇三五・三〇	一五二・三九	〇・九七
				方里	町	町	

本道に於ける耕地面積は略北陸全道より越中一國を引去りたるものに當り、尙細別すれば南道は北陸道の越後に、北道は山陽道の備前・備中・備後三國を合したるものに似たり。

耕地分布

本道は其慶尙道に接する方面は概して地勢高峻にして溪谷狹く従て廣豁なる平地に乏しく、而して西南黃海に面する部分は丘陵多しと雖も溪谷廣く平坦地少からず、北道に於ける全州平野羅州平野の如き即ち其重なるものにして實に一望千里の觀あり。要するに本道は韓國の南端に位し、黒潮の影響を受け、氣候温暖にして且つ交通亦至便、韓國十三道中農産地として其首位を占むるものなり。

主要耕地所在及現状

本道は韓國に於ける最も主要なる農産地として世上に喧傳せられ彼の著名なる全州の一大平野も亦こゝに包有せらる今其概況を表示すれば左の如し。

地域	廣袤	土性	灌漑	主產物	備考
全州平野	合算概測七萬五千五百餘町步	河邊ノ地質ノ他ハ埴質壤土、埴土、(地味良好)	溜池又ハ、水堀ヲ用ヒ灌漑スルモノ頗ル多シ	各種作物	本道最大平野ニシテ、旱害ヲ免カレス、
漂陽郡方面	東西約三里、南北約四里、概測一萬七千町步	河岸ヲ去ルニ從ヒ埴土、(多ク地味良好、山丘地ハ不良)	用水乏シカラス	米、麥、大豆、棉花	多少ノ水害アリ
光州、羅州方面	東西約四里、南北約五里、概測一萬七千三百町步	砂質壤壤土、埴質壤土	最モ豐カナルハ南平附近ナリ	米、麥、大豆、棉花	毎年多少ノ水害アリ、七八年目ニ一回大洪水アレトモ被害大ナラス
錦江沿岸	東西約四里、南北約二里半、概測五千八百町步	埴土(地味良好)	灌漑可ナリ	米、麥、豆類	
南原ヨリ谷城ニ至ル	東西約一里半、南北約三里餘、合算概測五千町步	砂質壤土(南原方面) 壤土(谷城方面)	灌漑便多シ	米、麥	谷城方面ハ南原方面ヨリ地味良好ナリ
求禮郡	東西一里、南北二里餘、概測三千三百町步	埴土(一般ニ地味頗ル良好)	全	米、麥、麻	水害比較的少シ

汎濫に際し其浸水區域は忠清道に屬する地方多く、全羅道に於ては、黃山地方に於て多少浸水するに過ぎず。

本江に於ける重なる繫舟場（本江より江景に至る右岸）は新羅浦（群山の上流二里）トルメ、芝沙浦、羅浦、南堂、黃山等にして、何れも米穀の輸出地たり。

萬頃江

德裕山の支脈に發源し、全州府の北を過ぎ、益山、咸悅、臨坡、金堤、萬頃の各郡に擴がれる全州の平野を貫流し、西下して沃溝灣に入る。延長二十里餘。河口より上流九里の處まで小舟を通じ得べし。又、河口は沃溝郡にして灣内碧波廣深にして舟楫の出入に便なり。

金堤江（扶安江又東津江）

泰仁、井邑兩郡の山間に發源し、北流して金堤、扶安兩郡を過ぎ、西轉して海に注ぐ。延長短けれども、河口より上流四里の間は小舟を通じ得べし。

榮山江

本江は潭陽郡秋月山に發源し、南流して二支流を合せ、羅州の平野を貫流し、榮山

浦を經、西南に流れて木浦灣に注ぐ。延長二十八里。河口より榮山浦まで十三里の間は小蒸汽船を通じ得べし。

本江は潮汐干満の影響多きが故に、舟運は之を利用して上下するを常とす。汎濫期は七八月にして増水三丈に達することあれども、二晝夜乃至三晝夜にして退水す。

本江沿岸に於ける主なる繫舟場は夢灘津（木浦より五里）朝海津榮山浦等にして何れも米穀棉花の輸出地たり。

蟾津江（嶽陽江、河東江）

北道東南部なる蘆嶺山脈中の萬里關道に發源し南流して南源に至り蓼川を合せ、更に南流して谷城の東を過ぎ、求禮郡に於て、南海沿岸山脈の北側に發する許多の溪流を集合して東方に曲流し、慶尙南道河東郡と、全羅南道光陽郡との間を東流して蟾津に至り同灣に注ぐ。延長二十餘里。水運の便に乏しく、汎濫期は七八月の頃にして浸水區域四千町歩に達す。

第七章 土地制度

田制

田制中に結及斗落日耕等を併記したるは頗る複雑なるかの感あるも便宜上之を一括せり。

結

現行の地税に、此を「結税」と云ふの起源は判然せざれども、高麗の末世に創り、少くとも五百年以上を経過したるものなりといふ。其制度及沿革の大要を述ぶれば、測地尺一平方尺の地より、一杷の收穫を得ることゝなし、十杷を束とし、十束を一負とし百負を一結とす、左の如し。

1=100	計	束	1=10平方尺	計
1=10	計	束	1=100平方尺	計
1=10	計	束	1=10,000平方尺	計

即ち一萬平方尺の地を以て、一等は之を「一結」とし、以下各等十五負を遞減して、六

計	米		圓	圓
	五斗	五貫	〇・九〇〇	四・五〇〇
計			〇・〇二〇	一・〇〇〇
收支差引益金			〇・〇八五	五・五〇〇

慶尙道 全羅道

水稻

種類

粳及糯あり。在來種は老人租と稱する長芒種多し。日本種は、朝鮮種に比し品質良好にして價格亦高きを以て、韓人も好んで之を栽培す。日本種は倭租又は正租と稱し、無芒種なりとす。慶尙北道玄風に於ては、山間の耕地には有芒種（在來種）を播き、平野の耕地には日本種を栽培す。

種子

貯藏 普通の粳と同じく俵又は呷に入れて、室内に貯ふるか、又は室外に藁圍をな

して貯ふるものあり。

撰種 箕選(風選)を行ふものあれども、殆ど夾雜物を除くに過ぎず

播種

浸種 四五日間浸種し多少發芽したる後播種す。即ち日本の芽出蒔なり。

苗代 日本在來のものと大差なし。大抵春耕にして、整地は丁寧なり。施肥は主として

草肥灰等を用ふれども又油粕煤等を施すことあり。何れも多くは元肥に施用す。

播種期 四月下旬乃至五月上旬之を行ふ。

播種量 概して一坪五合内外とす。

苗代と本田との割合。非常に多くの苗代を要するが如し。即ち一斗落の苗を以て十四斗落に栽うるといふが如きは屢耳にする所なり。日本の一反歩に對し、苗代約二十歩の割合となる。

陸苗代 慶尙北道尙州地方にありては、陸苗を仕立てるものあり。播種の際は毫も施肥することなく、發芽後二週日内外を経て人糞尿に灰を混じたるもの一斗落に付四五負を施す。生育不良なるときは尙一二回施肥することありといふ。(一負は

栽植

本田整地。二毛作收穫後直に水を灌ぎて犁にて耕耨し、後鋤を以て地均をなすあり。或は一回犁耕したる後灌水して更に一回犁耕するあり。二毛作を爲さるる田地に於ては、一二月の交より耕起を始むるあり。慶尙北道砧山附近にては極めて丁寧なるものは三回乃至四回犁耕するものありと云ふ。

地均しには馬糞を用ふるを常とすれども、鋤にて多少の手直しをなすものゝ如し。

耕地の方法は、日本と大差なし、何れも牛耕にして、全羅道は床犁、慶尙道は多く持立犁を用ふ。大抵一日に付五斗落内外を耕起すといふ。

要するに、整地は一般に粗放なるを免れずと雖も、慶尙道は全羅道に比し稍丁寧なるを見る。又畜力を利用する點は日本農家の及ばざる所なり。

移植の苗 植付に至るまでの日數は日本と大差なく、大抵四五十日間なり。

移植期 日本と大差なし。唯夫れを待つ地方多きを以て、年に依り、多少の遲速ある

を免れず。

栽植法 共同して、太鼓を叩き鐘を鳴らし、「神農遺業」といふ文字を記せる旗を樹て、囃しつゝ植付くる地方あり。又、個々勝手に植付くるものもあり。

一步の株數 株間は一尺以上なるあり。或は四五寸の狭きありて一樣ならず。全羅北道群山附近の平野にありては、一步三十株位の疎植多く、全羅北道雲峯郡の如き山間部にありては、百二十株以上の密植を行ふ。概して、全羅道にありては、五六十株、慶尙道にありては、六七十株を普通とす。一株の本數は頗る不同なれども、日本と大差なし。又、分蘖莖數は施肥多からざるに因るか割合に少なし。

肥料

種類

藁（屋根に葺きたる古藁を主とし、稀に新藁を用ふ）野草・厩肥・水屎尿に灰を交ぜたるもの（全羅南北道、慶尙南道の西南部に限る）人糞尿（慶尙北道及南道の東北部に限る）等を普通とし、就中最も多く施與せらるゝは藁及野草なり。其他地方によりては、稀に油粕・鶏糞・犬糞・蠶糞・屠殺獸の内臓・海藻（海濱に限る）粗穀及糠の野土等を施用するものあり。此等の肥料は各別々に施用するもの多きも、厩肥に人糞尿を混じ、或は藁に人尿を注ぎて散布するもの少からず、又鶏糞、犬糞、屠殺獸

の内臓・糞殻及糠等は、人糞尿又は厩肥に混合するを常とする。

施肥期 移植前原肥として施用するを普通とするけれども、稀に追肥として七八月の頃野草・蠶糞・油粕を施用するものあり。

施用量 一定せずとも、日本に比すれば概して少量なり。地方によりては全く施肥せざる所あり。

施用法 糞は多く土地耕起前田面に運びて一頁位づゝ堆積して腐熟せしめ、其一部は耕起前田面に散布し、残餘は一番耕起後散布するものあり。或は全部を一番耕起後に於て田面に散布し、耨入るゝものあり。又、野草・厩肥及人糞尿は一二番耕起後田面に散布し、耨込むを普通とする。又油粕は、除草の際田面に散布す。其他鶏糞・犬糞・屠殺獣の内臓・糞殻及糠等は人糞尿又は厩肥に混合施用し、野土は耕起前に於て海藻(生草又は乾燥せるもの)は一番耕起後に於て蠶糞移植後に於て田面に散布す。

手入

除草 大抵植付後二十日を経れば「ホミ」を以て除草を行ふ。回数は、二回乃至三回なるも間々四回行はる。

灌漑 溜池・堰堤等の設備あるもの少く、殆ど天水に委する地方多きが故に旱害に

罹り易し。

除害 苗代にありては、霜害豫防の爲め、灌水するを常とす。又雁、其他鳥類の害を避けんが爲に、番小屋を作り監視するものあり。又螟蟲浮塵子の如き害蟲少からず。

收穫及調製

收穫 收穫期は概して十月にして、鎌を以て刈取る。刈取りたるものは、稻架にて乾燥することなく、刈取後直ちに家屋内に運搬するか、或は田圃内に堆積して、粃米を扱落するを常とす。粃米取扱には單簡なる稻扱を用ふるものと、石に叩き付けて打落すものとの二法あり。前者は非常に勞力を要し、後者は夾雜物多し。粃摺器は人力に依る木製のものと、畜力を利用する石製のものとの二あり。又稀に日本製の粃摺器を使用するものあり。

調製 稀に唐箕を以て粃殻を除くに過ぎざるが故に砂粒・粃米等を混すること多し。尙又、收穫物調製の爲め、耕地の間又は丘陵の邊にある數十坪の平坦地に共同調製所を設くるものあり。

俵装は極めて粗雑なる収様のものにして、其容量一俵日本量八斗内外とす。開港
場にては往々日本より俵を輸入して使用する。

貯藏 多くは粃米を収に入れ屋外に設けたる藁圍中に貯藏す。

收量 一反歩の收量は玄米五斗乃至二石平均九斗内外なり。

地名	畑地區別	一斗落收量粃 (韓樹一斗ハ日本樹 五升トシテ換算)	一斗落ノ面積實査
忠清道 江景	上	二・〇〇〇石	五畝歩
全南 中	中	一・二〇〇	全
全 下	下	〇・八〇〇	全
全 上	上	一・五〇〇	約七畝歩
全北 中	中	一・〇〇〇	全
全 下	下	〇・五〇〇	全
全 中	中	〇・三五〇	三畝内
全南 中	中	一・六〇〇	四畝歩
全 上	上	一・六〇〇	六畝歩
全 上	上	一・五〇〇	約六畝歩

全	全	全	南慶	北慶	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	南慶	全	全
道尚					道尚					道尚					道尚		
蔚	安	靈	昌	立	七山花木里					昌	馬	咸	宜	明雲南			北羅
養										山							
山	里	山	寧	風						原	浦	安	寧	石峰原			
上	上	上	上	上	下	中	上	下	中	上	上	上	上	中	上	上	上

一·二〇〇	一·六〇〇	一·六〇〇	一·六〇〇	一·六〇〇	〇·六〇〇	〇·八〇〇	一·〇〇〇	〇·六〇〇	一·四〇〇	二·〇〇〇	二·五〇〇	一·六〇〇	一·六〇〇	一·〇〇〇	一·六〇〇	一·六〇〇	二·〇〇〇
約			約	全	全	全	約	全	全	六	(我	約					約
五			四				五			畝	一	五					五
畝			畝				畝			步	反	畝					畝
步			步				步			弱	當	步					步

全	全	全	全	北慶
龍		安	義	同
宮		東	城	仁
上	中	上	上	上
〇・八〇〇	〇・一六〇	〇・二四〇	一・〇〇〇	二・四〇〇

粃米又は玄米を販賣するには大抵市場に運び、其都度賣捌くものと、商人來りて買入るものゝあり。輸出は殆ど本邦大阪に向ふ。

産地及産額

産地 産額の多きは全羅道全州川(萬頃川)沿岸の全州・群山方面・榮山江沿岸の羅州・光州附近、慶尙道金海及大邱附近なり。

品質 日本産中等品と大差なく、全羅道にありては光州・靈光及長城附近の産慶尙道にありては昌原・馬山附近の産米は最も良好なるが如し。

産額 調査の據るべきなしと雖も、田地の面積慶尙道は三十三萬町歩、全羅道は三十萬三千町歩、合計六十三萬餘町歩なるを以て、一反歩の收量平均九斗として計算せば五百六十萬石餘に達す。

米作收日計算(上田)

收入

一金十二圓八十錢

粃四俵(三石二斗)

但五分摺ニシテ玄米一石六斗、一石金八圓ノ相場ニ算ス

一金一圓

藁百貫 一貫目ニ付一錢

計金十三圓八十錢

支出

一金六圓六十一錢五厘

人夫賃

人夫内譯

一回耕起

六分

(一人ニ付百五十文)

二回耕起

三分

(全)

三回耕起

三分

(全)

代 掻

五分

(全)

畦 塗

三分

(全)

苗代 拵

五分

(全)

施肥播種

一人

(全)

田植苗取

除草三回

灌溉排水

除害

收納調製

合計十七人五分(三貫六百七十五文。之ヲ十八割ニテ日貨ニ換算スレバ六圓六十一錢五厘トナル)

一金五十錢

牛損料

一金五十錢

種子

一金一圓八十錢

肥料

一金七十二錢

地粗

一金十五錢

農具償還費

一金三錢

油二合

一金十錢

雜費

計金三圓八十錢

差引勘定

一金三圓三十八錢五厘

純益

陸稻

栽培法 畦幅は稍高地の畑にありては一尺五寸内外なれども、河流沿岸地方にありては三尺内外なり。而して整地及中耕共に牛耕を用ふ。河流沿岸地方にては殆ど肥料を施すことなく僅に元肥として堆肥・人糞尿の少量を施すに過ぎざれども其の生育良好なり。

(栽培は洛東江の沿岸地方に多く、殊に慶北慶州より靈山三浪津に至るの間最も多しとす)

播種期 殆ど水田苗代と同時にして條播し多くは麥の畦間に播下す。

麥類

種類 大小稈麥及燕麥あり。而して大麥最も多く、稈麥及燕麥は極めて少し。

整地 慶尙道は日本と大差なく整地頗る丁寧なるを見れども、全羅道にありては一般に粗放なり。畑にありては前作跡地を耕起し、一尺乃至一尺五寸の畦幅(河流沿岸地にては三尺内外)となし條播を行ふ。又二毛にありては三尺乃至四尺畦を作りて(往々全羅南道に於て見る)播種す。

肥料 肥料の種類は稻作の條下に記したる所と大差なく、主として厩肥・堆肥・人糞尿及灰の混合物等を元肥として施用し、春季に至り人糞尿或は人尿を追肥として施用す。又河流沿岸の沖積地に於ては殆ど肥料を施さざるもの多し。

今肥料を施すこと最も多き慶尙道大邱郡砧山附近に於ける肥料の用量回数等を擧ぐれば左の如し。

乾田一斗落(日本四畝歩餘)に付

元肥	厩肥	三頁乃至四頁(一頁ハ十五貫目内外)
	人糞尿	三頁乃至四頁(全上)
二番肥	草木灰	一頁乃至二頁(全上)
	(春期)人糞尿	一頁乃至二頁(全上)
三番肥	(春期)人尿	四頁乃至五頁(全上)
		五頁(全上)

施用法 土地を耕起し畦條を作りたる後直に元肥として、人糞尿及灰の混合物人糞尿等を施用し、種子播下後厩肥、糶穀、草木灰、堆肥等を以て種子を覆ふを普通とす。又稀に施用する鶏糞・犬糞及糶穀の一部は種子を播下するに先ち人糞尿に混

じて施用し、海藻及藁等は厩肥の如く麥種子の上に覆ふ。

播種量 一斗落に付韓櫛一斗(日本の五畝歩に五升内外)にして概して原播とす。

播種期 十月別旬(早きは八月遅きは十一月)之を行ふ

春苗麥は二月乃至三月

播種方法 普通條播を行へども稀に點播なることあり。(二毛作には撒播。又種子に肥

料に混じて播下するもの少からず。)

中耕及除草 中耕は普通鋤を以てす。其の方法は日本に於て備中鋤を用ひるものに異ならず。中耕は大抵二回乃至三回畦幅狭きときは、犁鑿を去り、代ふるに鋤の風呂を以てし巧に培土を行ふ。又、河流沿岸地に於ては、麥の未だ伸長せざる時に於て、除草及中耕を兼ね、耙耕を爲すものあり。即ち馬耙の中央の齒を數本抜き去り、麥條の兩側二畦分を一回に耙耨す。而して土塊等の麥株に寄り掛るものあれば、後より熊手にて除く。其の功程頗る早く作業精巧なり。

病害 殆ど日本邦に異ならざれども更に豫防せず。

收穫期 六月中旬に刈取る。

收穫 畑地は一反歩當五斗乃至一石五斗平均八斗内外にして。二毛作地は畑地の半量を普通とす。

調製 収等に入れて貯藏す。

産地 到處大小麥を産せざるなく、畑地の各作は悉く麥類なり。而して全羅、慶尙兩道共に大麥を栽培すること多し。

水田の裏作として栽培せるものは、慶尙南道に最も多く（水田面積の約二割に達す）北道之に次ぎ全羅道は稍少く且北するに従ひて減少す。

大豆

栽培 麥の畦間に棉を栽培し麥刈取後其株を除き棉作の間に大豆を播下するものあり、又麥の刈跡を耕耨して播種するものあり。平地にありては二條に播種するを常として山地にありては一條とす。

播種期 五月乃至六月之を行ふ。

肥料 施肥せざるを普通とす。（往々灰類を施すものあり。）

收量 一反歩當六七斗を普通とす。

用途 朝鮮に於ける大豆需要は頗る廣く米に混じて食用に供するは小豆と同じく又豆腐味噌醬油等の製造に消費せらるゝこと多し。又白芽菜として副食物に供せらるゝこと頗る多し。

白芽菜 白芽菜は大小豆又は縁豆の嫩芽なり。其製法は、豆類を二三日間水に浸し其將に發芽せんとする際、箆に上げて水を去りたる後、之を蒸甑に入れ、溫突オシトコ室内に置き、時々清水を灌ぎ發芽せしむるものとす。

甘藷

種藷 細太中位のものを揃へ、籾殻又は赤土を混じ壺中に入れ、土中に埋むるか、又は溫度の變化なき所に置くを常とす。

苗 苗は、畑地に人尿を注ぎたる後、種藷を埋め、其發芽して二三尺以上に生長したる時之を切りて移植す。

移植 大抵降雨を待つて行ふを常とす。概して肥料を施さず、淺く且密に移植す。藷は形小に薄赤色にして甘味あり。

產地 全羅慶尙兩道の南部にして木浦及釜山附近に於て稍多しと雖も全躰に於

漆

山地處々自生の狀を以て生長す特に栽培するものなし。漆を採收するには漆樹を根部より切り放ち處々皮を剥ぎ火に炙りて樹液を滲出せしめ篋にて搔取るなり。

桑

到處野生の桑あらざるはなし。養蠶地にありては家屋の周圍又は圃邊に數本或は十數本の自生狀態の高木を見る。葉は稍々圓形にして周縁刻入することなきものと粗に刻入するものとあり。何れも粗剛にして品質佳良ならず。巨木高さ三四間に及び、婦女子攀登して採收するあり。

慶尙道、全羅道

棉

產地 到る處産せざるはなしと雖も慶尙道にありては晋州・咸安・密陽・靈山・大邱・諸郡最も多く全羅道にありては珍島・羅州・光州・南平の諸郡最も著名なり。而して慶尙道に比すれば全羅道甚だ盛なり。

整地 四月耕起し整地を行ひ大低麥の畦間に作付をなす。麥畦は棉地に限り多く

三尺内外の廣畦となすを常とす。又往々休閒地に作付をなすことあり。

播種 五月之を行ひ播種量は慶北倭館附近にて一反歩に付二斗以上を播種するが如く、其他の地方に於ても一反歩に付一斗五升内外を播下するが如し。前作は大豆を可なりと稱するものあり。

播種方法 水を以て種を濕し灰を塗抹するを普通とすれども尿中に浸すこと少からずと云ふ。

肥料 灰人屎尿等は主なるものにして、又厩肥も用ふ。大低播種の際元肥として用ふるも時として播種の際に肥料を施さざるものあり。用量は極めて不定なり。過半は追肥として施すを常とす。次に二三地方の施肥法を記さん。

全羅南道光州郡地方 種子に草木灰を混じて播下し其他別に肥料を施すことな
くして土を被ひ發芽後四五回間引を行ひ、其都度根際に人尿又は草木灰等を散布す。而して其施用量は一定せず。

全羅南道長城郡地方 人糞尿に灰を濕したるものに種子を交へて播下し發芽後

生育の良否により一回乃至三回人尿又は人糞尿を施用す。施用量は一定せざれども普通一回一斗落に付四五負位なりとす。

慶尙南道靈山郡地方 人糞尿に灰を濕したるものに種子を交へて播下し發芽後は稀に人糞尿を施用するに過ぎず。

同道蔚山郡曲淵村附近 畑地一面に厩肥及草木灰を一斗落に付凡そ四負位散布し、手を用ひて耕起し整地して種子を播下し、其後草丈四五寸に生育せる時一斗落に付人糞尿凡そ十五負を施用するを普通とす。

手入 發芽後除草及間引を兼ね少くとも三回多きは七回の手入を行ふ。而して漸次間引をなし、各株の間終りに四五寸距りの間隔を保たしむ。

收穫 早きは八月に收穫を始め遅くとも十月に終る。其收量一斗落に付二十斤乃至七十斤平均五十斤内外を中等とす。即ち一反歩に付凡そ日本の十八貫なるべし。而して此實棉一斤四五文の相場なるを以て五十斤四十文とせば二貫文即ち三圓六十錢許りに相當す一反歩七圓除)

大麻

產地 大麻は諸處に少量宛栽培す。而して慶尙北道安東附近に於ては其産額稍々多しと云ふ

栽培 休閒地を三月に至り犁耕し播種の準備を行ふ。其最も適するは大根跡なりと稱せり。大抵連作を行ふものゝ如し。畦幅は五寸乃至七寸にして犁を以て耕したる跡を「ホミ」にて播筋を切り種子を條播す。而して種子の上に灰を施し後足にて覆土を行ふ。

播種 其量は薄きものにありては一反歩五升なれども厚きものにありては一斗以上なり。

手入 發芽後間引を行ひて疎密を一樣にす。大抵は除草を兼ねて一回に終る。

肥料 厩肥・灰・人糞尿類を用ひ、何れも元肥に施す。而して其用量は一定せず。

收穫及調製

收穫期 普通七月。丈け五六尺に伸長したる時鎌を以て刈り取り束となし運搬す。

收量 一反歩に付製苧五六貫なるべし。麻布十反分内外の收穫を上等とす。一反の

價格は六百文内外（一反の長は韓尺四十尺なり）なり。

製法 何れの地方も略同一なり。其法先づ石竈を作りて石を置き其上に麻束を立て周圍を包み下部の石熱するに至れば上より水を注ぎ蒸熱したる後其外皮を剥ぐ。外皮は之を濕して温突の暖灰中に入れ六七日間放置したる後之れを取り出だして煮沸し、洗ひて後纖維を製す。纖維は之を紡ぎ繼ぎ合せ卷きて束となし直に織物に供す。

調製 蒸熱せるものを割きて絲となし環狀にせる後灰中に入れ、又は灰を塗抹して温突中に入れ置くこと四五日後水にて洗ふこと二三回にて織物用に供することあり。又慶北安東邊にありては皮を剥ぎたるものを水に浸し置き、後揚げて粗皮を扱き落とし、再び水に浸したるの後細く紡ぎ糾戾を掛く。故に灰汁にて晒すことは織りたる後に行ふを常とす。

麻布 農閑に織るもの多きを以て麻は束の儘乾燥して貯ふるを普通とす。

大麻 諸處に少量宛栽培す。慶尙北道安東附近に於ては産額稍々多しと云ふ。

蘭及苴苴(七島蘭)

苴苴は殊に多く栽培するものゝ如し。全羅南道に於ては一般に温突内の上等敷

物として蒞苳蔘蔘を用ふるを見る。

蒞苳 三四月の候水稻の生育不良なる田地を利用して播下し置き、水稻移植を終りて後移植す。水稻よりも遙かに密植す。肥料は施さざるもの多しと雖も、生育の不良なる場合には人尿を施すと云ふ。

收穫 降霜を待て之を爲す。霜に逢はざるものは心硬き故なりと云ふ。刈り取りたるものは直に三本に割く。

楮

產地 多くは山麓等に自生せるものに多少の手入を施して莖を採收するに過ぎず。楮の外皮より紙を製する方法左の如し。

製法 土窖中に收穫せる楮莖を入れて一方に石を熱し之れに水を注ぎ水蒸氣を生せしめ以て蒸熱したる後取り出して皮を剥ぎ乾燥す。楮皮より紙を製するには之を水に浸し小刀の類にて外皮を除き灰汁にて煮沸したる後日光に晒し石上にて棒を以て叩きて纖維を碎く。而して容器内に移し水を混じて破碎し糊を加へて抄くものとす。又地方により溪流を利用して破碎其他設備を爲せるもの

のありと云ふ。

苧麻

野生のもの多く又多少栽培せるも殆ど施肥することなし。

原料を晒すには水を加へて屋上に擴げ以て日光に曝露す。又冬季には霜と日光との力によりて自然の漂白を待つ。

苧麻の織物は専ら農家の副業に屬し忠清南道韓山及全羅北道に多く産す。

機は日本の地機と稱するものに異ならず。

藍

產地 藍は其需用少く僅かに婦人の下裳を染むるに過ぎず。従つて之れが栽培亦少しとす。

栽培法 極めて幼穉なり。多くは移植を行ふも疎密不整にして或は畦をなさず恰も水稻を植ゑたるが如きものあり。刈取は二回なるもの多し。

製法 生葉を瓶に入れ水を加へ其醱酵せる後石灰を加へて沈澱せしめ所謂泥藍となして貯ふ。而して之れに熱湯を加へ染汁となす。

其他菰藍あり。染料に供せらるゝこと少からずと云ふ。

煙草

播種 煙草は大抵の地方に産す。而して全羅北道全州附近慶尙北道慶州附近は産額多しと云ふ。

種子 日本と同じく灰又は土と混じて播下す。

苗床 高さ五六寸、幅一尺五寸乃至二尺五寸許の畦とし、灰及堆肥を混じて散布しよく土壤と混和したる後壓付け其上に種子を播下し松葉等を以て覆ふ。播種期は普通三月下旬なりとす。

栽培 苗の五葉内外を生ずるに至れば之を移植す。本畑は多くは山腹の傾斜地なり。整地は犁を以てするあり、鋤にて行ふあり、畦幅二尺株間五寸乃至一尺位に栽植するもの多し。概して連作せざるもの多く、前年の夏作に大豆を栽培せし處を貴ぶ。土質は濕地を忌み、排水宜しき黄色の地を選ぶ。

肥料 移植の際枯草、厩肥、糞尿、灰等を施し其後四五寸に生長したる後油粕を與ふるものあり。油粕は粉末となし一斗落に二箇位も與ふることあり。又糞尿其他の

雑肥は大低一斗落に付十負内外を普通の用量とす。左に二三地方に於ける肥料の概要を摘記せん。

全羅南道靈光郡地方 煙草は専ら山間部の傾斜せる畑地に於て大小豆類と隔年輪栽するを普通とし、苗床及本畑共特に肥料を與ふることなし。而して本畑には一年豆類を栽培せば其子實のみを收納して幹及莖葉は畑地に殘存し置き、翌年煙草の移植前之を焼却し、耕起後煙草苗を移植すと云ふ。

慶尙南道晋州郡地境川村附近 煙草は主として急傾斜をなせる山畑に棚形の畦を設けて之に移植す。而して苗床は本畑の近傍に設け播種の際及苗床生育中には施肥することなく、苗五六葉を生じたる時、本畑に移植す。移植の際は根際に田土及灰を一握位施用し、移植後は降雨後人尿を三回根際に施用するを普通とす。苗の五六寸に生長せる頃稀に胡麻油粕を一斗落に付二玉乃至五玉を粉碎して根際に施用するものあり。

慶尙南道金海郡七山花木里附近 苗床に播種の際は別に肥料を與へず。發芽後に至り人糞尿を施す。而して移植後は普通三回人糞尿を施す。其苗の三四寸に生長せる頃青草を根際に埋むるものあり。

慶尙南道靈山郡地方 苗床に入尿を注ぎて濕潤ならしめたる後種子を播下し發芽

後は時々米の磨汁を注ぐ。而して移植後は人糞尿・草木灰・土肥等を各二三回根際に施用す。

慶尙北道慶州郡地方 苗床にては施肥することなく移植の際畑地一面に草木灰及溫突煤等を散布して翻込み整地して移植す又は移植後根際に右の肥料を施用する者あり。而して移植後は人糞尿を二回位根際に施給するを普通とす。

中耕は「ホミ」にて行ふ。又摘心をなすことあり。側芽は皆刈り取る(慶北慶州の例)

收穫及調製 收穫は大抵八九月にして下葉三葉を残し幹の儘切り取り更に側芽の生長せるものを待ちて刈取ること二回にして一反歩に付二三十貫内外なり。收穫せる葉は之を繩に挟み室内に吊るし置き半乾になりたる時二日間許堆積し後再び吊るして乾燥す。

繩の長さは六尺内外にして之に百枚内外の葉を挟み一聯と稱す。一聯の價大抵百文内外とす。

煙草は韓人の最も嗜好する所にして刻まらずして掌中に揉み喫煙するを普通とす。

全羅南道珍島に栽培せらるゝ灌木なり。

宅地附近の畑に約三尺内外の畦を作り之れに二尺内外の距離にて株植をなす。肥料は人屎尿・温突灰塵埃等を六月、十一月の二期に施す。而して年二三回中耕除草を行ふ。繁殖は株分法若くは挿木法により大抵三年にして結實す。

落葉灌木にして花は少しく青色を帯び小なり。實は八月に熟す。採收せる實は温突室に入れ蔭乾を行ふ。

専ら藥用として販賣し多く忠清道公州慶尙北道大邱地方に輸出すと云ふ。

珍島邑に於て藥酒と稱し之れが花を入れ普通の藥酒を赤く染色せるものあり。

(附)

朝鮮主要農産物收穫高

(度支部調査)

本表の收穫額は各財務署に訓令し各財務署は面洞里長又は農事精通者等に就き調査したるものなるも韓國に於て各道に涉り此種農産物の收穫額を調査するは今回を以て嚆矢とするのみならず統計思想殆ど皆無なる朝鮮にありて統計事務中精確なる數字を得ること最も困難なる農産物收穫額の精確なる數量を得ん

とするは其至難なること固より言を俟たざる所なりとす。従て本調査の數量も亦精確なるを保し難し。然れども本調査は力めて推斷臆測を避け、穀物收穫の終了時期に際して實地に臨み面洞里長等に就き調査せしものなるを以て比較的精確なるべきを信ず。

租麥(大麥小麥)大豆は各道各郡に涉り漏れなく調査したるを以て其數量は此を全國總收穫額と認むるを得べしと雖も小豆以下は地味及氣候の關係に因て其作付僅少なる爲め此を主要農産物と認めず。調査を省略したる地方少からず。故に全國の總收穫額と認むるを得ず。従て此に對する平年作との増減比率を掲載せず。葉煙草は主産地なる慶尙南北道及全羅南北道の報告なきを以て本表掲載の收穫額は全國總收穫額の一小部分に過ぎざるものと認む。

明治四十一年中主要農産物收穫額表

(△印は減)

道名	品名	收穫額	増減比	備考
	麥	九三七、五三四・三一五	△	水害及早魃ニ因テ平年作ニ比スレハ減收
	粳	一七二、八七二・四〇一	△	
			二・四三	
			二・三八	
				全

	京 畿					江 原					慶 南				
	大	小	粟	棉	葉	大	天	小	葉	稻	大	粟	棉	稻	麥
	豆	豆			草		豆	豆	煙		豆				
	一九二、八〇四・四二六	四、一六五・八七〇	五三、六七七・九四二	八八、五一四	一〇、〇〇〇	六八七、六二六・八三〇	八三、八九七・五四〇	一〇四、六三〇・二八〇	七、七三〇・二七〇	一、三一〇・〇〇〇	一、八六八、四八〇・一五七	六〇八、九三八・六六九	一六一、二四九・五九七	七、七四一・四二〇	六四四・七八八
	石	斤	斤	斤	斤	石	斤	斤	斤	斤	石	斤	斤	斤	斤
	△	△	△	△		△	△	△			△	△	△	△	
	三・三一	二・二〇	二・五八	一・五三		一・七四	一・八〇	一・五〇	・二〇		・二〇	・四九	・一二	・八三	・八六
	全	全	全	早魃ニ因テ同上							降雨多量ト收穫時期暴風ニ因テ減收			全	

平北				平南				忠北											
小	大	麥	穀	葉	棉	粟	小	大	麥	穀	棉	粟	大	麥	穀	棉			
				煙															
豆 豆				草				豆 豆				豆							
四〇九、三〇八・〇〇〇 石				五一八、九一五・〇〇〇 斤				二九四、二三八・〇〇〇 石				八五六、八四五・六八〇 石				一六九、九九一 斤			
一一、五三五・〇〇〇				一、〇五八・三二九 斤				一一〇、六二六・〇〇〇				五〇、一八六・四〇〇							
一八五、二八九・〇〇〇				五四、五九〇・〇〇〇				一四九、八二八・〇〇〇				一九、六〇六・九〇〇 斤							
一三九、一三〇・〇〇〇				四〇、六二〇 斤								七九、六五五 斤							
△				△				△											
一・四四				・〇八				・九〇				・七四				・三二			
三一				・五七				・六〇				・八二				・一七			
二・二三				二・〇〇				二・八四											
一・三五				收穫時期に降雨多量ナリシ爲メ減收				旱魃、風災及蟲害に因て減收											
早魃ニ因リ減收																			
收穫時期ニ降雨多量ナリシ爲メ減收																			
發穗時期ニ風害ニ因リ減收																			

	咸 南		黃 海		
麥 粃	粟 小 大 麥 粃		葉 棉 粟 小 大 麥 粃	葉 棉 粟	
	豆 豆		煙 草 豆 豆	煙 草	
一七九、二一九・〇〇〇 五七、三九〇・〇〇〇 一一三、一二五・〇〇〇	一七八、一〇二・〇〇〇 石 一四九、四二六・〇〇〇 一〇四、四五四・〇〇〇 七、九七九・〇〇〇 一七九、二一九・〇〇〇	△ △ △ △ △	七七三、二七四・〇〇〇 石 一六〇、七五三・〇〇〇 一六五、〇二二・〇〇〇 九三、〇六八・〇〇〇 八六六、四六〇・〇〇〇 斤 二六一、一九二 斤 四九、九五〇 斤	四二二、二一九・〇〇〇 斤 七九五、〇二一 斤 一三五、〇四〇 斤	△ △ 七〇 一〇・九六 二・四二
收獲時期ニ降雨多量ノ爲メ減收	五六六月ノ交ニ旱魃ノ爲メ減收 春早ノ爲メ結實不充分ニシテ減收	此收穫時期ニ降雨多量ナリシ爲メ減收			

總計		咸北	
葉煙草	棉粟小大麥粳	粟小大	豆
一、五四五、六一〇	二、七三一、九七二・三五四	二一五、八七八・〇〇〇	一七五、一八五・〇〇〇
一二、九八〇、六九六	三〇九、一九九・〇四〇	二、五三六・〇〇〇	二、五三六・〇〇〇
斤	斤	△	△
	一、七三七、二一五・六二四	△	△
	三、八六七、七二二・九五三	△	△
	一四、五九四、三二八・一七〇	△	△
	・八九	・八二	・一〇一
	・一〇	・四五	・一〇一
	・一〇	・八二	・一〇一

四 染料

紫草・菰藍・かるめ等。

前者は紫色・後二者は青色（今日之を使用する者稀なり）なり。

病虫害

病虫害は日本に於けるものは殆ど在らざるなきが如し。

慶尙道 全羅道

果樹

果樹類も殆ど日本と異ならざれども、冬期氣候寒冷なるを以て、枇杷、柑橘等を見ず。多きは棗・栗・柿にして梨・桃・杏等之に次ぐ。近時日本人及歐米人等の出入するを以て、果物の需要増加すると同時に、果樹の新種類及良品種漸次輸入せられ、開港場附近に於て栽植せらるゝを認む。

栗

産地 到處産せざるなく、其栽培面積及産額は蓋し果物中の最たるものならん。殊に洛東江の沿岸、慶尙北道倭館・慶尙南道實里・密陽附近に多し。

品質 一般に日本のものと異らず良好なり。

品種 形態小なり。用途 燒栗として食す。

桃

產地 全羅道に於ては稀有、處尙道に於ても點々散在するに過ぎず。就中稍園狀をなすものは、慶尙北道義州附近に認むるのみ。

生育 一般に佳良なり。

土性 乾燥する處多く、砂礫を混ずる處少からざるを以て極めて適地たるものゝ如し。

梨

產地 全羅道にては北道全州附近に多く栽植せるも、南道には極めて少し。慶尙道に於ても亦北道に多く産す。

品質 西洋種に近く、石細胞細かきも心環にして有蒂のもの多く、形狀小にして且不整なり。

棗

產地 到處に産す。大抵家屋の附近に栽植するを常とすれども、慶尙道洛東江沿岸地方に於ては、栗林の如く園狀をなせるを認む。其産額栗に劣らず。

品種 果實は一般に大にして長さ一寸に及ぶもの珍しからず。

用途 主として薬用とす。又甘味多きを以て砂糖の代に餅の中に搗込む者多し。

柿

柿は、形態小なる澁柿のみにして、多くは乾柿に製す。家屋の附近或は畑地に植付け、別に手入を行はず。到處に産出すれども、慶尙道開基の産は品質良好なりといふ。

蔬菜

蔬菜は稍多く栽培するものなきに非ざれども、普通は家屋の附近に其栽培面積數坪乃至數十坪のもの多し。蔬菜中最も多きは蒜にして、白菜・大根之に次ぐ。白菜は到處品質良好なり。又甜瓜の蔬菜と稱するより寧ろ補助食物たるの觀あること各道と等し。而して蔚山の産最も賞味せらる。

白菜

種子 秋期良好なる株を選みて地中に埋め、翌年三月に至り移植し、六月株種を行

ふ。清國白菜は、形狀品質共に朝鮮在來のものに優れども在留支那人の栽培せるに過ぎず。

栽培法 一尺五寸内外の畦に一尺許の距離にて五六粒宛點播を行ふ。而して三寸内外に成長せし時、間引きて一本とす。

肥料 人糞尿に灰を混じたるもの。(全羅道及慶尙南道の西南部)人糞尿(慶尙北道及南道の東北部)及人尿播種の時、人糞尿に灰を混じたるもの或は人糞尿を施し、發芽後追肥として凡三四回人尿を施用す。此他極めて稀に播種の際草木灰或は油粕類の粉末を施用するものありといふ。

手入 葉を軟かならしむる爲に灌漑を行ふことあり。除草及中耕は大抵四五回之を行ふ。

在留支那人の白菜栽培は手入頗る集約にして朝鮮人の比にあらず。

收穫 十一月にして、一株の價八錢乃至十錢なり。貯藏するには屋内に於て倒に立つるものとす。

甜瓜(主として慶尙南道蔚山郡の例)

品種 外皮白色なるものと青色なるものとの二種あり。前者は結果少く、後者は在來種にして結果多けれども品質劣れり。

種子 收穫後其内部を腐熟せしめて採收す。價一升三十錢内外なり。

栽培法 四月中旬乃至五月上旬に播下す。地方により種子を水に浸して播くものあり。畦幅は三尺乃至四尺、株間三尺内外なり。

肥料 播種前に施し、土を混じ其上に二十粒づゝ播下す。

一般に大豆の跡地を好み、麥作の間に栽培するときには豫め麥を三四尺の畦幅に栽培す。

栽培地 高き處にて排水灌漑自由なる砂質壤土を貴び、連作は一般に之を忌むものの如し。

肥料 元肥として馬糞或は犬糞に適宜人糞尿を加へ、一斗落に付三負内外を施す。補肥は人糞尿の如き、速效のものを用ひ一斗落に付二十負内外を發芽後三回に施す。

手入 除草は四回、間引は二回乃至三回行ひ一株三本乃至五本づゝとす。又其一尺

内外に生長せるとき摘心を行ふ。結果數は一株につき五六個内外とす。

收穫 七月乃至八月。其生産費十斗落に付十二三圓を要し收穫物代價は六七十圓なりと云ふ。

蒜

三四尺の畦に横條を作り、三四寸の距離にて一株づゝ植付け六月頃に至りて收穫す。

種根の大なるものを選び二月頃植付け、後は藁を以て覆ひ、其上に多少の土を置き四月頃發芽するを俟ち、覆を去り人糞尿を施し土寄せを行ふ。

植付の際に於ける肥料は、馬糞又は堆肥及水屎尿に灰を混じたるものを施すを常とす。

水蘗

普通六月頃繁茂せる莖を田地に撒布するときはその節部より根を生じて成長を始む。

收穫は十月頃より始むれども、多くは春季四月頃他の蔬菜の缺乏を告ぐる際に至

り採收す。

花卉

花卉は極めて少し。京城の如き都會にありては往々盆栽を觀賞するものあれども、田舎にありては殆ど然らず。普通栽培する所のものは、

牡丹芍藥・菊・菖蒲・躑躅・櫻・蓮花等なり。

雜類

竹林

產地 全羅道最も多く又慶尙道大邱附近以南家屋の周圍、其他山腹河邊等（古來全羅南道）

の光州、羅州等に於ては利益多きが爲竹）に産す
林を金畑と稱し之を重んぜりと云ふ

品種 淡竹・苦竹・煙管用の竹等數種あり。

用途 簾籠・建築用及漁業等の材料とす。

及卵は共に美味なり。

其他の家禽

鶏以外の家禽にして飼養せらるゝもの、鶯鶯あれども、稀に見る所のものにして愛玩に供するに過ぎず。

慶尙道 全羅道

家畜

牛

產地 慶尙南道最も多く就中密陽・固城・馬山・浦鎮・海附近を以て主とす。而して慶尙

北道・全羅南道之に次ぎ全羅北道最も少し。

形質 赤色のもの多く、黒色又虎班のものあり。一般に體格大にして、性質柔順なり。

生牀量は體格中等の牝牛にして平均五十貫内外、牡牛は平均九十貫内外、肉量は其半量許なりといふ。

繁殖 交尾は大抵三歳より之を行ふ。別に種牛と稱すべきものなく、大抵附近に飼養せる牡牛又は市場に牽き來れるものと交尾せしむ。

交尾料は地方により無料なる處あれども金百文乃至五百文（十八錢乃至十九錢）又は麥等を以てし或は分娩の際麥・大豆等を贈るといふ。

牝牛は其少壯なるものは毎年交尾せしむることあるも、多くは隔年に一回とす。犢は分娩後五六月にして斷乳せしめ以後は普通の飼料を與ふといふ。

飼養 畜舎は大抵二間内外の堀立小屋にして、三面土壁を繞らし、傍に尿壺を設くるものあり。蓐草は大抵藁或は麥稈を用ふ。

飼料 麥・豆・藁・豆莖・粃殼・糠・穀等種々あれども、夏季は青草を多く與へ、或は草生地に繋ぎ、夜は舍内に入るゝを常とし、冬は一日三回粃殼及切藁を煮て與ふるを普通とす。

尙、勞役に服せしむるときは右の外、一日に大豆或は大麥二三合乃至一升若くは米糠一升内外を加ふ。

管理 畜舎陋隘にして管理上の注意甚だ粗なり。但寒氣烈しき時は藁の如きものを入口に掛け多少の防寒をなす。

價格 耕作に使用すること甚だ多く、耕牛一頭の價格は五十圓内外なり。

豚

飼養管理 豚舎は多く丸太若くは土壁にて圍み、或は傾斜地を利用し穴を掘り、出入口のみ丸太を以て圍みたるものあり。其管理は多く婦人の手によるものにして、飼料は殆ど之を與ふることなく、日中は舎外に放ちて隨意に食物を求めしむるもの多し。

繁殖 一般に繁殖力強きものゝ如く、往々十數頭の仔豚を連れたるものを見る。交尾は殆ど自然に委するものゝ如し。

用途 肉用として飼育するものなれども、一般には牛肉よりも高價なるが如し。多くは淪^ゆで販賣す。又腸に牛血を詰め之に豆腐・蒜・葱等を切り込み、食鹽を加味して煮る腸詰様のものあり。

價格 豚は十貫内外のものにして一頭八圓内外仔豚は七十錢内外なり。

馬

產地 全羅南道濟州島を主とす。

形質 體驅矮小にして其丈通常三尺六七寸なり。色は鹿毛・栗毛・蘆毛を主とし、稀に

青色あり。四肢割合に發達し蹄質堅硬なり。

性質 柔順にしてよく勞役に堪ふ。

繁殖 交尾は自然に放任するものあれども大抵は四歳より行ふを常とす。

飼養 畜舎は牛と等し、多くは板張にして、前方に大なる横木を渡し之に穴を穿ち、飼料を入れて與ふ。

管理 妊娠せるものも分娩前迄使役するを常とす。分娩後は多少飼料の分量を増與し三箇月乃至七箇月にて斷乳を行ふ。

價格 乗用として最良なるものは百圓を出づるものもあれども普通は三十圓乃至五十圓なりといふ。

驢

馬と同じく大抵四歳より繁殖に供す。

飼料 普通大麥及粃を施給す。然れども決して煮て與へず。

價格 一頭三十圓内外。

山羊

概ね黒色のものにして各地に飼育せらる。

然れども其目的僅に藥用に供する位に止るを以て頭數極めて少し。

多くは山野に繋ぎ野草を與ふ。一頭の價四五圓。

犬

到處肉用家畜として飼養せらる。

種類粗野日本在來種と等し。

飼料は廢物のみを給するに過ぎず。

家禽

鶏

種類 大抵足短く、尾長く垂れ、毛深く、體小さく、單冠にして日本在來種と大差なし。

飼料 多くは舍外に放ち飼料を給せず。

鶏舍 籠製にして大抵軒下に吊すもの多し。籠は長橢圓形にして、徑三尺兩端少しく細く、其長さ一間内外のものなり。又孵化期に當りては巢鳥の爲に別に藁を以て籠を編み、軒下に吊し置くを常とす。

巢箱 松樹の圓筒より成り長さ二尺許直徑六七寸にして地上に直立せしむ。下端地に觸るゝ所の周縁に泥を塗る。上端は板を載せ空隙亦泥を塗り更に掩ふに素焼水鉢或は弧を以てす。圓筒の稍下部に小口を設け蜂の出入に便ならしむ。右圓筒巢箱は住家の附近山麓日當良き所或は岩窟の下或は朽木の空洞内に据う。

分封 滑稽なるは分封の期に先ち岩窟の如き蜂の巢作すべき場所を選びて數個の圓筒を配置し以て之に入るゝを待つことなり。分封は入夏の頃にして分封せるものは右巢箱に入れ飼養す。而して分封は二回を常とせり。冬期は家に持來りて日向良き雨露を受けざる處に越年せしむ。蜜を採取するは八月の頃に於てす。蜜を採取する刀を以て巢房の半を截取す。半、斯くして得たる蜜は木棉にて濾過す(蠟は蠟燭の材料となす)一巢の産蜜量は明ならざれども四五斤を出でざるものゝ如し。

慶尙道 全羅道

蠶

蠶種 重に自家にて製し三眠蠶の黃色繭多し。

飼育 全羅北道全州附近全羅南道羅州附近に蠶を飼育せるもの多し然れども其量甚だ少く一戸一升内外の繭を收むるに過ぎざるもの多し。又孵化に先ち

「ぐち」魚の汁に浸し温き處に置くものあり。

掃立 羽を以てし木皿の如ものゝ中に置き細く切りたる桑葉を振り掛くると

云ふ(大抵三回位に掃立つ)

給桑 回數は一定せず。多少前回のもの殘存せる中に與ふるを常とし一日四回内外とす。

蠶座 圓形或は方形にして竹又は藁を以て製す上簇迄三十日を要す簇は松葉の如きものを用ふ。

收繭 上簇後一週を経て行ふを常とす上簇後收繭迄極めて靜かにせんとて庭に米を搗くことをも禁ずと云ふ。

病蠶及蛆害 亦少からず。病蠶あるときは蠶具をも捨つることあり。其他飼育中は他人を近づけず、不潔物を忌むとて屠殺等を禁ずと云ふ。

殺蛹 蒸殺したる後陽光にて乾す。又採種用のものは小形にして固きものを選び繭の一端を絲にて聯ね陰所に吊し置く。

製絲法 繭を釜中に入れ水を加へて煮沸し絲緒を二本の棒に引掛け之を經過

せしめて一方に篩を置き其中に纏め環形をなさしめたる後上より壓して扁平となし之を日乾し以て杵に繰るなり。絲を晒すには灰汁にて煮ることあり

と云ふ眞綿は灰汁にて煮て後叩きて作ると云ふ。

最近調査に依れば全道に於ける養蠶戸數は約六萬一千五百、内最も多きは慶北の約一萬五千にして、全南の約八千七百、京畿の約六千之に次ぎ、江原及平南の約五千亦之に次ぐ。桑畑は約七百三十一町歩、内最も多きは全南の約百七十四町歩にして、慶南の約百四十町歩、慶北の約百五町歩之に次ぎ、京畿の約八十八町歩、江原の約六十四町歩亦之に次ぎ、他は遙に下る。

蜜蜂

全羅慶尙各道に於ては蜜蜂を飼育すること少し。慶南河東より全北南原に至る間に於ては巢箱は木を刳りて圓筒形となせるもの（徑一尺高二尺五寸）を平面の石上に安置し粘土にて其接續部を塗り唯寸許の空隙を残し蜂の出入口とし上部は又板を以て被ひ粘土塗防寒の爲めに藁薦を覆へりといふ。

山地にて蜜蜂を捕ふるには其巢をなせる木を伐りて持ち歸るなり。又分封の際は飼育箱を其附近に装置せば能く之に移る。又蜜蜂の逃去しときは其集團せる處